

提 言 書

令和 6 年 7 月 2 5 日

甲斐市男女共同参画推進委員会

はじめに

私たち「甲斐市男女共同参画推進委員会」は、令和4年8月に第9期目として市長からの委嘱を受け、男女が共に支え合える生活快適都市を目指し、男女共同参画に関する研修や啓発活動に取り組んで参りました。

この2年間の活動の中から提起された意見を集約し、提言書として提出いたします。

提言書の趣旨をご理解のうえ、今後策定される第3次甲斐市総合計画や第5次甲斐ヒューマンプランをはじめとする各種計画に反映していただき、甲斐市における男女共同参画社会推進と「緑と活力のある生活快適都市」の実現に向けた施策をより一層進められますようお願い申し上げます。

令和6年7月25日

甲斐市男女共同参画推進委員会
委員長 雨宮 優

提 言

1 女性活躍推進

本市の審議会等における女性委員比率は増加傾向にあるものの、令和5年度は27.4%と「第4次甲斐ヒューマンプラン」の目標である30%を下回っており、政策・方針の場への女性の参画はまだ十分とは言えません。引き続き関係団体の女性委員や女性管理職の登用率の向上が図れるように努めてください。また、女性の活躍推進のためには子育て支援の環境整備が必要です。様々なハラスメント防止も呼びかけてください。

2 男女共同参画の視点を取り入れた防災の推進

東日本大震災以降、避難所において女性の不便や理不尽を感じる報道が増えました。しかし、今年発生した能登半島地震でも、未だに女性や妊産婦、乳幼児等が避難所で安心して過ごすための配慮が不足している状況です。背景には、避難所運営に携わる地域人材に女性が少なく、女性のニーズが反映されにくい現状があると思われます。また、防災計画や防災訓練に「男女共同参画の視点」が十分に盛り込まれていないことも挙げられます。災害時の困難を最小限にするためには、災害によって生じる男女の影響の違いに十分な配慮が必要です。今年度防災危機管理部局に女性課長が登用されましたが、平時から女性の意見が反映されるように男女共同参画の視点に立った防災体制づくりをお願いします。

3 教育の場における男女共同参画の推進

暮らしの中に潜むアンコンシャスバイアスと呼ばれる無意識の思い込みは、環境によって育まれます。学校は、子どもたちが社会生活を身につける体験の場です。市立小学校では10年以上前から男女混合名簿を使用するなど、男女共同参画に取り組んでいただいておりますが、SDGsに掲げられるジェンダー平等や生理について男女共に学ぶなど、小学生のうちから男女の相互理解を深める時間を多くとっていただけるようご配慮ください。また、無意識の差別をなくす環境づくりのために、女性管理職の働きやすさや文系理系等教科に係る男女比の是正等、教職員が働く環境の改善を望みます。

4 男性の育児・介護休暇取得推進

女性に偏った育児や介護を軽減し、男女ともに活躍する機会を作るためには、職場だけでなく家庭内での男女共同参画の推進が欠かせません。また、男性が育児や介護に主体的に関われるように、制度が活用される環境づくりが必要です。そのために、市職員が率先して育児・介護休暇を取得し、企業に対して取り組み事例を示していくなど情報提供や取得推進を図ることで、働きやすい職場づくりを進めてください。

5 生理の貧困の周知と支援

「生理の貧困」は、生理を「恥ずかしい」「隠すべき」ものだと考える風潮から、女性が、経済的だけでなく、身体的、精神的な困難を抱えている問題です。私たちは、ジェンダー平等の立場からこの問題に向き合い、啓発のリーフレットを作成しました。作成にあたり、専門の相談窓口がないことや生理用品の支援が継続的な支援に結び付いていないことなどの課題が見えてきました。これらの課題解決のため、リーフレットを活用していただき、生理の貧困への市民の理解を促してください。また、学校における生徒の生理休暇導入の必要性も感じました。市や学校等で、困難を抱える女性が相談や支援を受けやすい体制づくりをお願いします。

6 DV被害者への支援

令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。現在、DV相談窓口として甲斐市在住女性専用ダイヤルが設置されていますが、受付時間や対象が限られているため、精神的・身体的に苦痛を強いられている方の助けとなる様、SNSの活用や男性からの相談対応等、支援の増強を望みます。また、DV防止のためには早くからの教育が必要だと考え、中学生を対象に講座を開催していますが、受け入れは年間1校のみとなっています。相談内容も多様化している今、多くの方の理解を深めるためにも、オンライン開催なども含め「知る機会」を増やし、市民全体の意識向上を図ることで、困難を抱える人が相談しやすい環境が整うことを望みます。

7 性の多様性理解増進

本市では、令和5年12月にパートナーシップ制度が始まり、半年以上が経過しました。当事者の生活の質を向上するだけでなく、社会全体の理解を増進するためにも、より一層この制度の周知を図ってください。また、令和6年度からは市内2つの中学校に第三の制服が導入されるなど、性の多様性に配慮した環境づくりが進められております。今後も、その人がその人として生きることが出来る、偏見のない社会が形成されるよう、甲斐市職員の窓口対応における研修をはじめ、LGBTQ+への理解を深めるための取り組みをお願いします。

第9期甲斐市男女共同参画推進委員会名簿

役職	氏名	推薦団体名
委員長	雨宮 優	自治会連合会
副委員長	廣瀬 俊江	女性団体連絡会
	弓田 仁美	女性団体連絡会
委員	穴水 剛	自治会連合会
	阿部 水穂	公募
	内松 太一	人権擁護委員
	太田 有咲	公募
	菊池 永佳	公募 (R5.3.31 退任)
	齋藤 美子	公募
	塩沢 正行	自治会連合会
	末木 伸夫	民生委員
	高橋 順子	公募
	武井 良二	公募
	三井 亮	公募
	山本 紘治	公募
	依田 那津希	公募

任期：令和4年8月1日～令和6年7月31日